

わ す ら ぎ 通 信

第6号 (平成23年5月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

皐月 (早苗月)

からたちの花

作詞 北原白秋 作曲 山田耕筰

からたちの花が咲いたよ 白い白い花が咲いたよ
からたちのとげはいたいよ 青い青い針のとげだよ
からたちは畑 (はた) の垣根よ いつもいつも通る道だよ
からたちも秋もみのるよ まろいまろい金のたまだよ
からたちのそばで泣いたよ みんなみんなやさしかったよ
からたちの花が咲いたよ 白い白い花が咲いたよ

季節は進み新緑の美しい時節を迎えました。しかし、天候の方は今年是不順で暖かい日はあまり続かないですね。岩手県に派遣しているわが医療チームの報告でも、岩手も大変寒い日が続いていたようで、4月も20日を数えるようになっても積雪やお昼の気温が0度という日もあったようです。被災者の方々がおかれた大変厳しい生活環境などを考えると、少しでもお力にならなければと思う毎日です。

さて、万代池は春から初夏へと大きく衣替えをしつつあります。四季おりおりの季節のうつろいを感じさせてくれる万代池ですが、昨年から池の北側岸辺で整備が進められていたカキツバタの群落は、今では緑鮮やかにたくましく育ち、今月下旬には紫の花を一斉に咲かせて楽しませてくれるのではないのでしょうか。説明書きでは、住吉区の花がかきつばただそうで、「ビオトープ」の取り組みとしてかきつばたの群落を整備していると書いてあります。「ビオトープ」とはなかなか馴染みのない難しい言葉ですが、自然界の生態系を構成するまとまりのある植物群や生物群が収まる自然環境を人為的に整備するとでもいうことでしょうか。たとえば蛍であれば蛍が生育する水辺環境を人為的に創り出すといったことのようにです。ということは、もともとこの万代池はかつてカキツバタの一大群生地であった可能性がありますね。いにしへの自然が豊かであった当時の万代池を甦らせるプロジェクトなのかもしれません。是非注目していきましょう。

今月の歌は「からたちの花」をとりあげてみました。

からたちは、中国の原産で、日本には8世紀頃から植えられているみかん科の落葉低木樹だそうです。名は「唐橘（からたちばな）」が詰まったものだとされており、晩春に甘い香りの白色五弁の花をつけます。「枳殻」と漢字では書きます。

この清楚な白い花を咲かせる「からたち」は、その花の姿に似合わず長い鋭いとげを持っています。このため、1960年代にブロック塀が普及するまでは人家の生垣に多用され、からたちの花を目にする機会も大変多かったようです。しかし、今ではそういったことを目にする機会はほとんどなくなりました。

ところで、「からたちの花」を作曲した山田耕筰先生の少年期は、病弱の父、家出をした兄、幼くして亡くなった弟というようにあまり恵まれた環境ではなく、苦難苦学の少年期を過ごされたようです。また、多感な青年期の18の歳には最愛の母と永遠の別れを余儀なくされました。

「からたち」は、秋には黄金色の実をつけます。概観は、本当に「まろいまろい金

のたま」に見えますが、その実は種が多く、苦く、とても酸っぱくて食用にはならないとされています。しかし、当時食べ盛りの耕筰少年にとっては、この「まろい金のたま」もひもじさを紛らわせる糧になったようです。はじめは、この実を必死でかじり悪戦苦闘していたのが、いつのまにか耕筰はサラダ感覚のように食べられるようになったというエピソードも残されております。

耕筰は、その後三菱財閥の岩崎小弥太と知り合い、その支援によりドイツ留学という人生の天運が開かれます。そして、やがて日本を代表する作曲家に成長していきました。

「からたちの花」は耕筰36歳のときの曲で、親友となった北原白秋とともに生み出した名曲ですが、作曲に当たっては、苦しかった青少年期のほろ苦い思い出を原風景に描きながら作ったと言われております。

ところで、私どものセンターでは、一昨年に、ふとしたきっかけで山田耕筰先生の数少ない愛弟子であった声楽家嘉納愛子先生のことを知りました。その年、嘉納愛子先生は、NHK ラジオ深夜便のなかの「こころの時代」というコーナーにご出演なさいました。そこで、嘉納先生がセンターの近く帝塚山にお住まいだと知りました。そしてその年の秋に、ご縁があって、先生と知り合うことができました。

嘉納先生のごことはNHK 広島放送局が制作した番組「NHK 百歳バンザイ」を通じて、すでに多くの方が知っておられました。

是非、嘉納先生にお会いしたい、私どもの願いは、当時の荻原俊男院長の知人でありました帝塚山病院の大屋登史子理事長のご尽力で実現しました。

嘉納愛子先生は、戦後山田耕筰先生が相愛大学の初代音楽学部長に就任されたときに、耕筰の推挙により声楽科の講師（後に教授）として相愛大学に招かれ、長年相愛大学で、また、その後、大阪樟蔭女子大、大阪教育大学、大阪芸大で多くの後進を育てられ、100歳を超えられた今日でも、未だ現役の声楽家として後進の指導をなさっておられる先生です。また、今は亡くなられた夫君は、灘の老舗蔵元の四男としてお生まれになり、山田耕筰先生、北原白秋先生とは親友としておつきあいされた方だったともお聞きしました。

当センターでは、是非その嘉納先生に患者さんも含めた場で、これまでの人生の歩みと、何よりも100歳を越えられるお年になられても病気らしい病気をご経験なされたことがない秘訣を是非お話いただきたいと、さらにその上で先生の素晴らしいお歌をお聴かせ願えませんでしょうかとお願いをいたしました。その結果、その年の10

月8日にその願いをかなえていただいたのです。

そして、その感動の当日、その会の冒頭に、ピアノを自ら弾きながら歌っていただいたのがこの「からたちの花」でした。

先生のお声は、とても100歳を超えておられるとは思えない素晴らしい伸びと迫力のあるもので、「からたちの花」の曲の美しさとともに、参加したすべての人々を感激の世界に導いていただきました。と同時にどこか物悲しい響きを感じさせる曲でもあり、それが、この曲の深みを一層増しているかのようでした。

そこには、山田耕筰先生のような思いが嘉納先生の歌声を通して、世紀を超えて甦ったように思いました。

当センターと嘉納愛子先生との出会いは、その後、先生が教鞭をとられた相愛大学との包括連携協定の締結（昨年2月）に発展し、相愛大学連携コンサートなどの連携事業となって結実しております。出会いとは何と素晴らしいのでしょうか。

そして、今月、また新しい出会いがありました。

当センターでは、少しでも患者さんにやすらぎを感じてもらえるように、ほんまもの上方演芸を患者さんに楽しんでもらえないかと考えてきました。

それが、いよいよ実現するのです。

それもお縁を取り結んでいただく方がありまして、地元住吉区の山之内コミュニティセンターで定期的に落語会を開催されているグループの会長さんとお知り合いになることができました。そのグループとは、「三代目 桂 春団治師匠を囲む会」という会です。地域にお住まいの方は知っておられる方が多いのではないのでしょうか。

会は上方落語の大御所桂春団治さんがこの住吉区内にお住まいになっていることからこの会を結成され、今では定期的に山之内コミュニティセンターで春団治一門の落語会を開催されておられるようです。

その会の会長さんに、私どもの思いを打ち明けますと、気軽にお引き受けいただき、このたび実現することとあいなりました。

当センターといたしましては、かずかずの出会いを大切に、ご協力とご支援をいただきながら、患者さんを支え、最高の医療と最大のアメニティを提供できるようこれからも日々進化を遂げてまいりたいと存じております。

また、当センター自らも、病院を核にして、患者さん、地域の方々、大学等の機関

などとの交流を一層進め、地域の発展に貢献してまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

NEWS

【1階エントランス工事が完成しました—より便利に、より優しく！】

先月号でもお知らせしましたが、震災の影響で搬入が遅れていました椅子やソファなど家具類がようやく入り、フル・リニューアルオープンしました。新規外来、再診外来、入院、会計等とゾーン分けをいたしまして、目的の受付にわかりやすくアクセスが可能となり、また、コンシェルジュ、委託会社の職員、センター職員全員が真心をこめて病院ご利用のお手伝いをさせていただきます。

また、玄関をお入りいただきますと、心やすらぐBGMが皆様方をお迎えいたします。

【地震被災者への医療支援活動を継続実施しています】

当センターは、大阪府の基幹災害医療センターとして、また府立の基幹医療機関として、このたびの地震発生当初から被災地に医療チームを派遣し、継続的な医療支援活動を行っています。医療支援活動は、岩手県の要請により5月も継続することになりました。

5月は、私ども府立5病院に加え、阪大病院、中河内救命救急センター、泉州救命救急センターも参加していただくことになりました。

①DMAT (Disaster Medical Assistance Team) の派遣

DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されています。医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療スタッフまたは事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、発生直後から入り、救命救急医療活動を展開します。

当センターのDMATは、2隊派遣をし、第1陣は震災発生当日の3月11日に出発し、12日から13日にかけて仙台医療センターや若林地区で活動を行い、13日には石巻地区に移動し、14日まで石巻赤十字病院で活動を行いました。

また、第2陣は13日に出発し、14日に仙台医療センターに、また同日夕刻からは15日にかけて、花巻空港で傷病患者さんの域内搬送支援の活動を展開しました。

②医療支援チームの派遣

多くの避難所に分散されて避難されておられる被災者の方の健康の維持が大きな課題となっております。このため、岩手県知事の要請を受ける形で、府立5病院で医療支援チームを編成し、一般医療チームは釜石市の避難所において、こころのケアチームは宮古市の避難所において医療活動を継続的に実施しております。

当センターは、これまでに第1陣（3月24日から3月28日まで）と第2陣（3月27日から3月31日まで）、第6陣（4月8日から4月12日まで）、第9陣（4月17日から4月21日）の4班を派遣いたしました。この活動は、新たに冒頭の3病院を加えた混成チーム方式により5月中継続することになりました。

【新たにカレーショップが5月中旬にオープンします】

先月号でお知らせしましたが、本館と中央館との間の連絡通路からの北側出口角に新たにカレー専門ショップが5月10日にオープンします。

このカレーショップは近鉄電車の駅なかショップに出店している「えびすカレー」というお店です。テイクアウト形式でカレーとマラサダドーナツ、にぎり寿司を提供することになっています。

機会があれば是非ご利用ください。

今月の催し

【第18回看護の日イベント】

「あなたの笑顔はみんなの笑顔 さあ今日も笑顔ですごそう！」

日時 5月10日(火) 10時～12時(第一部)

14時～15時30分(第二部)

場所 第一部 本館外来2階

第二部 本館3階講堂

内容 第一部 ☆禁煙ポスター展示(たばこの害を知りましょう)

☆生活習慣病予防(身長・体重・血圧測定など11時30分まで受付)

☆認定看護師活動紹介

第二部 ☆てっちゃんのマジックショー

☆脳トレ頭の○×クイズ

☆パープルシンガーズによるコーラス

【日本センチュリー交響楽団演奏会】

「センチュリー病院コンサート～室内アンサンブル」

日時 5月16日（月）午後3時～

場所 1階エントランス

演奏者・曲目 （未確定）

【第11回相愛大学連携コンサート】

「みずみずしいブラスの音色は新緑の響き～ユーフォニアム四重奏」

日時 5月27日（金）午後2時～

場所 本館3階講堂

演奏者 相愛大学ユーフォニアムアンサンブル

曲目 「天地創造」より栄光ある仕事を成し遂げた F. J. ハイドン

カルヴァリー C. ドーヴ

津軽海峡冬景色 三木 たかし

ジブリメドレー 久石 譲

きよしのズンドコ節 水森 英夫

【大好評！！】

愛大学連携・外来糖尿病教室～知って得する！糖尿病の付き合いかた～】

日時 5月24日（火） 14：00～15：30

糖尿病の基本や、食事の話など盛り沢山です！

講師：糖尿病代謝内科診療主任 藤木 典隆 「糖尿病の小話」

（体操） リフレッシュしよう！

理学療法士 乾 純子 「運動療法について」

糖尿病療養指導士（管理栄養士）笠井 香織

「外食の工夫・洋食編」

相愛大学人間発達学部栄養発達学科学生による「サッとシステム」を使用した食事診断も開催します。

また、希望者には血糖値測定を行います。

場所：本館 1 階 1 番外来付近

参加費：無料

【今月のすこやかセミナー】

「今話題の新しい糖尿病のお薬について」

日時 5月27日(金) 午前11時～12時

場所 3階保健教室

講師 当センター糖尿病代謝内科 主任部長 馬屋原 豊

参加費 無料

【現代美術空間—病院ギャラリー 企画展開催中】

平成23年6月23日まで 本館2階ギャラリー 無料

前回の第2回企画展「中国 江南のみち」に引き続き、須田剋太「街道をゆく・挿絵原画展—信州佐久平のみちほか」を開催しています。

須田剋太は、司馬遼太郎氏に同行しながら、1971年から1990年に亡くなる直前まで週刊朝日に連載された「街道をゆく」の挿絵原画を描き続けました。

この間に描いた挿絵1858点が他の油彩画等とともに、大阪府に寄贈されました。

本作品展は、大阪府立現代美術センターのご協力で開催しております。

【予告：次回の現代美術空間—病院ギャラリー 第4回企画展】

平成23年6月24日から

やすらぎの木版作家「浅野 竹二 初期情景版画展」

～ 新・京名所と新・大阪風景 ～

【予告：第1回☆万代やすらぎ亭寄席】

桂 春団治一門 落語会

日時 7月27日(水) 午後2時～

場所 本館3階講堂

出演者 桂 梅團治

桂 福丸

(ご協力) 「三代目 桂 春団治師匠を囲む会」

Topics

【地域医療連携室と地域医療予約室が同一フロアになりました！】

地域の医療機関との連携窓口、地域医療連携室はこれまで連携室が2階、地域予約室が1階と分かれており、地域医療機関の皆様方には大変ご不便をおかけしておりました。このたびのエントランス工事に合わせまして、医事グループの執務室の改装を行い、その中に地域医療連携室・予約室が入り、既に、同じフロアで業務を開始しております。

また、昨年末よりインターネットを介した地域医療予約の受付を開始し、ご登録をいただいた医療機関様からは「夜間でも予約が取れて大変便利になった」とご好評をいただいております。地域医療連携室では、今後地域の医療機関の皆様方とともに、地域の患者さんを支えることに貢献していきたいと思っております。

【23年度機器整備でPET-CTを導入！】

がん診療の拠点病院として、がんの診断機能を一層強化することを目的に、23年度の医療機器の整備の一環としてPET-CTを導入することになりました。整備時期は、年度後半になる予定ですが、詳細が決まり次第、本通信でもお知らせいたします。

今月のコンシェルジュ

【コンシェルジュリーダー（T）からのメッセージ】

エントランスの改装も終わり、受付窓口や再来受付機の場所が以前と変わりましたので、わかりやすく案内表示を作成し、患者さんが迷われないよう積極的にご案内させていただきます。

また、バスの時刻表や最寄り駅までの地図もご用意いたしております。

どうぞお気軽にお声をかけてください。

その他のお知らせ

【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、4月からメルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。

なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

当センターは、院内が「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力します。